

見ると歴然としている。全体が大形であり、花は緑白色で紅暈がないくらいの差である。ところがこの属は南アフリカに分布の重点があつて、それが西表島にあるとは不思議である。もっとも *D. javanica* J. J. Smith がジャワに産するが、葉は1個しかつかず大形である。また台湾沖の紅頭嶼からジョウロウラン *D. orientalis* Fukuyama が報告されていて、これも似ている。どうもはっきりしないので一応 *D. teleplana* F. Maekawa としてフタコブランの名をつけた。この和名は学名のもとになった両がく片の大きな突起に因んだ。可憐なこのランにフタコブランとは少々可愛そうに思うと清水さんの手紙にもあったが、日本としては最初の蘭だから属の特徴を表わした方がよいと考えてそのまゝにした。そして3年過ぎた。

然るところ、正宗巖敬博士が北陸の植物 20 卷 4 号 (1972) の口絵第 13 図版にそのジョウロウランを発表されたので細かい点がわかった。これはじつに西表のと似ている。たゞ茎がずんぐりと太いし、唇弁が折れ曲って居らずまっすぐに伸びているなどの差がある。これはまず別とみたいが、蘭の花はまことにデリケートで一寸した向きでもひどく違ってみえるから、やはり同一種の内と考えてそれを採ることとした。たゞ私のみたものの図を添えて将来の決定を俟とうと思う。

ジョウロウランはジョウロウホトトギスと同じく女藺で、まことに古い名であるが優雅でもある。紅頭嶼から西表と共通するもので台湾に分布をみないものがニッパヤシなど 45 種程あることを初島彦彦氏がその著 琉球植物誌で指摘しているが、それに一例を加えるものである。なお *D. orientalis* は下記によると、*D. siamensis* の異名となっている。それが正しければ比島及びタイにも分布することになる。

Disperis siamensis Rolfe ex Downie in Kew Bull. 1925: 422—Seidenfadern in Botanisk Tidskrift 65(1-2): 101. f. 1 (1969).

D. orientalis Fukuyama in Bot. Mag. Tokyo 50: 17 (1936), Masamune in Journ. Geobot. 20(4): pl. XIII (1972).

D. teleplana F. Maekawa in sched. Herb. Univ. Tokyo.

Hab. Is. Iriomote, Ryukyu in silvis Castanopsisidis, R. Nakara (D. Shimidzu, Jul. 30 1971). New to the flora of Japan.

Distrib. Is. Botel Tobago, the Philippines and Thailand.

□Addenda (追加) Vol. 49, page 232, line 11. Please add: "Another part. Polypodioid ferns, was identified by Dr. M. Tagawa and published in this journal 38: 235-331, 1963." (by Hiroshi Ito)

236 ページ 14 行に追加: "なおウラボシ科は田川基二氏が同定し、同巻: 325-331に発表された。" (伊藤 洋)